

# RSウイルス感染症の疫学パラメータ

- 病原体：Paramyxovirus科のPneumovirus属に分類される、エンベロープを有するRNAウイルスである。
- 潜伏期間：2～8日、典型的には4～6日
- 感染経路：呼吸器からの飛沫感染、接触感染であり、ウイルスは環境表面上で数時間、ヒトの手で約30分生存する。
- 好発年齢：年齢を問わず、顕性感染する。1歳までに50～70%以上が、3歳までにすべての小児が罹患するとされる。
- 有症状期間：通常7～12日
- ウイルス排出期間：通常3～8日だが、乳幼児や免疫抑制者は3～4週間続くことがある。

# 高齢者のRSウイルス感染について

- 成人の市中肺炎におけるRSV関連肺炎の中では、高齢者が大半を占めるとされており、介護施設の高齢者の入院と死亡を増加させていたとの報告や、集団発生時には多数の肺炎が見られたことなどから、高齢者のRSウイルス感染が問題となっている。

**⇒ 高齢者に対しても乳幼児と同等の注意及び対応が必要。**

**⇒ 本疾患流行時には小児のみならず幅広い対象に対する注意喚起を行うことが重要である。**

参考：新型コロナウイルス流行期に高齢者施設で発生したRSV-Bの集団 感染事例 (IASR Vol. 43 p87-88: 2022年4月号)

高齢者のRSウイルス感染 (IASR Vol. 39 p212-213: 2018年12月号)

RSウイルスと肺炎球菌が検出された老人福祉施設での集団発生事例(IASR Vol. 34 p. 208-209: 2013年7月号)